

2022年度 教職課程 活動報告

1. 教職課程の開設状況

札幌・湘南・静岡・熊本の各キャンパスには、中学校教諭及び高等学校教諭の養成課程（一種免許状及び専修免許状の課程）が開設されている。また、湘南キャンパス（伊勢原校舎）には、医学部看護学科に看護教諭の養成課程（一種免許状の課程）が開設されている。このほか、2022年度には、湘南キャンパス（湘南校舎）に新設された児童教育学部児童教育学科に、幼稚園教諭及び小学校教諭の養成課程（一種免許状の課程）が開設された。

なお、2022年度の学部改組及びカリキュラム変更にとともに、以下の学科に置かれていた教職課程が廃止することとなった。

学部	学科	専攻・課程	中学校一種	高等学校一種
政治経済学部	政治学科		社会	公民
	経済学科		社会	公民
	経営学科		社会	公民
法学部	法律学科		社会	公民
教養学部	人間環境学科	自然環境課程	理科	理科
		社会環境課程	社会	公民
	芸術学科	音楽学課程	音楽	音楽
		美術学課程	音楽	音楽
工学部	光・画像工学科			工業
	電気電子工学科			工業
	材料科学科			工業
	精密工学科			工業
	機械工学科			工業
	動力機械工学科			工業
	航空宇宙学科	航空宇宙学専攻		工業
	建築学科			工業
	土木工学科			工業
海洋学部	航海工学科	海洋機械工学専攻		工業

また、改組された学科のうち、以下の学科については、届け出による教職課程の開設が認められた。

学部	学科	専攻・課程	中学校一種	高等学校一種	備考（旧学科）
工学部	生命工学科		理科	理科	生命化学科
海洋学部	海洋理工学科	海洋理工学専攻	理科	理科	海洋地球科学科
文理融合学部	人間情報工学科			工業	電気電子情報工学科
農学部	農学科			農業	応用植物科学科
	動物科学科			農業	応用動物科学科
	食生命科学科		理科	理科	バイオサイエンス学科

2. 教職課程担当教員の状況

開放制の教員養成制度に基づく中学校教諭及び高等学校教諭並びに養護教諭の養成課程の運営と教育は、本学の教職課程に関する統括組織であるティーチングクオリフィケーションセンター（以下、TQC とする。）が開設学科とともに担っている。教職課程の運営と教育を主として担う TQC 所属の専任教員・特任教員は、以下のとおりである。なお、湘南キャンパス以外の教員は、学部・学科に籍を置きながら TQC を兼務している。

・札幌キャンパス

池田裕子 教授（札幌キャンパス長付（教職資格）／国際文化学部地域創造学科）、岩田みちる 特任講師（国際文化学部国際コミュニケーション学科）

・湘南キャンパス

朝倉徹 教授（TQC ゼネラルマネージャー）、大島宏 教授（TQC シニアマネージャー・TQC 学校教育学系マネージャー）、前田善仁 教授、関口洋美 准教授、稲垣智則 准教授、藤井大亮 准教授、斉藤仁一朗 講師、今井良男 特任教授、反町聡之 特任教授、奥村 仁 特任教授、西本健吾 特任助教、保坂克洋 特任助教（以上 TQC 学校教育学系）、古里貴士 准教授（TQC 社会教育学系・科目担当）

・静岡キャンパス

小林俊行 教授（海洋学部海洋生物学科）、鈴木敦史 准教授（海洋学部水産学科）

・熊本キャンパス

藤本邦昭 教授（九州キャンパス長付（教職資格）／文理融合学部人間情報工学科）、一井武幸 特任教授（農学部）、福山裕士 特任教授（農学部）、蔵岡智子 特任講師（文理融合学部地域社会学科）、山内絵美理 特任助教（農学部）

なお、湘南キャンパスの相田紘孝 特任講師は、任期満了にともない 2022 年 3 月 31 日付で退職した。

3. 教職課程履修者の状況

3-1 履修状況

教育実習事前指導（養護教諭養成課程は養護実習事前指導）の受講者数（主に 3 年次生）は合計 572 名であった。内訳は以下の通りである（キャンパスは学生の所属キャンパス）。

- ・札幌キャンパス：45 名（3 年次生 43 名、4 年次生 2 名）
- ・湘南キャンパス（湘南校舎）：479 名（3 年次生 463 名、4 年次生 12 名、大学院生・科目等履修生 4 名）
- ・湘南キャンパス（伊勢原校舎）：4 名（3 年次生 4 名）
- ・静岡キャンパス：29 名（3 年次生 29 名）
- ・熊本キャンパス：15 名（3 年次生 15 名）

教職課程全体を省察する科目である教職実践演習の履修者（主に 4 年次生）は合計 488 名であった。内訳は以下の通りである（キャンパスは学生の所属キャンパス）。

- ・札幌キャンパス：31 名（4 年次生 30 名、科目等履修生 1 名）
- ・湘南キャンパス（湘南校舎）：408 名（4 年次生 381 名、大学院生 5 名、科目等履修生 12 名）
- ・湘南キャンパス（伊勢原校舎）：10 名（4 年次生 10 名）
- ・静岡キャンパス：23 名（4 年次生 23 名）
- ・熊本キャンパス：16 名（4 年次生 15 名、科目等履修生 1 名）

3-2 教員免許状の取得状況

2022 年度に一括申請により中学校教諭免許状及び高等学校教員免許状並びに養護教諭免許状を取得した学生は、483 名（実数）であった。各キャンパスに所属する学部生・大学院生の教員免許状取得状況は、「2022 年度

教員免許状取得者数（一括申請）」のとおりである。

2022 年度 教員免許状取得者数（一括申請）

	中学校		高等学校		養護教諭	免許状取得者（実数）	
	一種	専修	一種	専修	一種	一種	専修
札幌キャンパス	20	0	35	0		29	0
湘南キャンパス	324	27	413	29	10	404	29
清水キャンパス	22	1	27	1		27	1
熊本キャンパス	5	0	26	0		23	0
合計	371	28	501	30	10	483	30

3-3 教員採用状況

（1）教員採用試験大学推薦特別選考への対応

2022 年度に実施された教員採用試験大学推薦特別選考にあたって、本学では志願者に対して学内選考（書類選考、面接、模擬授業）を実施し、3 自治体に 10 名の学生を推薦した。その結果、5 名の学生が合格した。合格者の内訳は、相模原市 2 名（保健体育 1 名、理科 1 名）、横浜市 2 名（国語 1 名、理科 1 名）、千葉県・千葉市 1 名（理科 1 名）であった。

（2）新規卒業者の教員就職状況

2022 年度に本学を卒業した者で、教員として就職した者は 121 名であった。内訳は、小学校 14 名（公立 14 名）、中学校 62 名（公立 60 名、私立 2 名）、高等学校 39 名（公立 21 名、私立 18 名）、特別支援学校 6 名（公立 6 名）である。

4. 教職課程充実への取り組み

4-1 教職課程のファカルティ・ディベロップメント（FD）

2022 年 3 月 31 日（金）に、各キャンパスの TQC 所属の教職課程担当教員による教職課程全国会議を開催した。各キャンパスの教職課程運営に関する状況報告や課題の共有のほか、教員養成政策の動向、新型コロナウイルス感染症にともなう教育実習・介護等体験等へ対応、教員採用試験の早期化の動向などについて情報の共有と意見交換を行った。なお、2022 年 9 月 14 日（水）、熊本キャンパスにおいて、TQC 所長、学校教育学系主任、熊本キャンパス及び清水キャンパスの教員、TQC 課長、熊本キャンパス職員による情報交換を行った。

これにくわえて、湘南キャンパスでは、2023 年 2 月 24 日（金）に、TQC 所属の教職課程担当教員のほか、非常勤講師や学科教員による教職課程全体会議をオンラインで開催し、本学教職課程の状況や課題、学生へのアンケートの結果等に関する情報共有のほか、グループに分かれて授業運営に関する意見交換を行った。

4-2 教職課程充実への取り組み

札幌キャンパスでは、札幌市教育委員会との連携による「学生ボランティア派遣事業」に 3 名の学生を派遣した。また、へき地小規模校での多様な教育活動を体験する取り組みとして北海道教育委員会が実施している「草の根教育実習」に 2 名の学生が参加した。このほか、さっぽろ青少年女性活動協会が、学習に不安を抱える中学生を対象に、学習習慣の定着や安心して過ごすことのできる居場所の提供を目的として実施している「さっぽろ学びのサポート事業 まなべえ」に 24 名の学生が参加した。

湘南キャンパスでは、例年、秦野市教科学習支援員として秦野市内の小中学校に学生を派遣している。新型コロナウイルス感染症の状況に鑑み、2020 年度と 2021 年度は学生の派遣を中止したが、2022 年度は秦野市教育委員会や学校関係者のご理解とご協力により派遣を再開し、37 名の学生が派遣された（春学期のみ、秋学期のみの学生を含む）。また、秦野市教科学習支援員として活動する学生を対象とした授業科目「学校インターンシップ」

において、振り返り等を実施した。このほか、近隣自治体の学校教員を講師として、7月7日（水）に「生徒指導困難校における指導と教職員体制」、12月6日（火）に「ICTを活用した授業改善と学校のコロナ対策」をテーマにした教職教養講座を開催した。さらに、12月3日（土）には、教職に就いた本学卒業生による同窓組織である「無限の会」との連携により、「無限の会」会長による講演と教職に就いている本学卒業生4人によるパネルディスカッションを開催した。

静岡キャンパスでは、教職課程履修者を中心に、大学に近接する三保第二小学校における出前授業（「おしえて名人」）を実施した（6月7日、7月5日、9月6日、11月15日、12月13日、1月24日）。また、教育実習事前指導の一環として、近接する静岡県立清水南高等学校・同中等部の開催するオープン・スクールを参観（6月18日）や静岡県立清水南高等学校・同中等部校長による講話（7月2日）を実施した。

熊本キャンパスでは、教員採用試験対策として開講されている「学校教育ゼミナール」において、熊本県教育委員会学校人事課を招き、教員採用試験の在り方や昨今の教育事情などを含めた教育行政の実態と求められる教師像についての講話を実施した。また、関係の高等学校会議への参加や行事への参加協力に、TQC教員が出席し、学校現場や教育委員会との意見交換を行っている。

5. 新型コロナウイルス感染症への対応

5-1 教育実習

2022年度に教育実習を予定していた学生のうち、新型コロナウイルス感染症の影響により、実習校での教育実習が実施できなかった者はいなかった。

5-2 介護等体験

新型コロナウイルス感染症の影響により、2022年度の介護等体験にあたっては、全部または一部の体験を中止し、文部科学省の定める代替措置による対応を行った。2022年度に介護等体験を予定していた中学校及び高等学校教職課程履修者468名のうち、代替措置により介護等体験の全部または一部が免除された者は467名、2023年度以降に見送った者は1名であった。対象となった学生には、独立行政法人国立特別支援教育総合研究所が開設する免許法認定通信教育の科目に係る印刷教材の学修成果を確認することで対応した。467名の代替措置対象者のうち、視覚障害児の教育課程及び指導法の学修成果の確認による代替は180名、聴覚障害児の教育課程及び指導法の学修成果の確認による代替は287名であった。

なお、これとは別に児童教育学科の学生（小学校教員免許状取得予定）143名も介護等体験を予定していたが、これらの学生についても文部科学省の定める代替措置による対応を行った。このうち、代替措置により介護等体験の全部または一部が免除された者は141名、2023年度以降に見送ったものは3名であった。対象となった児童教育学科の学生のうち、視覚障害児の教育課程及び指導法の学修成果の確認による代替は63名、聴覚障害児の教育課程及び指導法の学修成果の確認による代替は78名であった。

（大島 宏）